

ながさきいせき
3. 長崎遺跡

所在地：坂井市丸岡町長崎 24 字 1
調査原因：開発に伴う発掘調査
調査期間：平成 29 年 3 月 1 日～17 日
調査主体：坂井市教育委員会
調査面積：約 24 m²
時代：中世～近代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 北陸新幹線建設に伴い、農道を水田に改良することが必要になりました。西側の隣接地では福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが北陸新幹線建設に伴う発掘調査を行っており、今回の改良予定地でも遺構が見つかる可能性が極めて高かったため、発掘調査を実施しました。

遺構 井戸 1 基、土坑 2 基、ピット 6 基を検出しました。ピット及び土坑は深さ 20cm 程度の浅いものが多く、遺構面の直上まで改良土があったことから、遺構面の上層の一部は既に削平されており、遺構面の下層の一部が削平をまぬがれ残っているような状態でした。また、遺物は井戸から土師質皿・陶磁器・木製品などが多く出土しました。

遺物 遺物は全ての遺構及び上層の改良土から出土しました。特に井戸 1 及び改良土から多くの遺物が出土しています。遺物はほとんどが 15 世紀ごろのもので、土師質皿・陶磁器が多くを占めています。また、井戸の下層からは 13 世紀ごろの越前焼などが出土した他、櫛・曲物などの木製品も出土しました。

まとめ 今回の調査により、現在は水田となっている称念寺の北東側にまで長崎称念寺関係の僧房もしくは、集落が広がっている可能性が極めて高い事が分かりました。

また、遺物は 15 世紀ごろのものが多く、13 世紀ごろのものも一部出土しました。その一方、14 世紀中ごろの南北朝時代の遺物は今回の調査では出土しませんでした。14 世紀中ごろのいわゆる南北朝時代には、福井県下でも遺跡数が激減することがこれまで指摘されてきましたが、長崎遺跡も同じ傾向にあることも分かりました。

ただし、調査面積が狭いため、近隣の調査結果等と照らし合わせ、再度検討する余地があります。(青山 航)



調査区全景



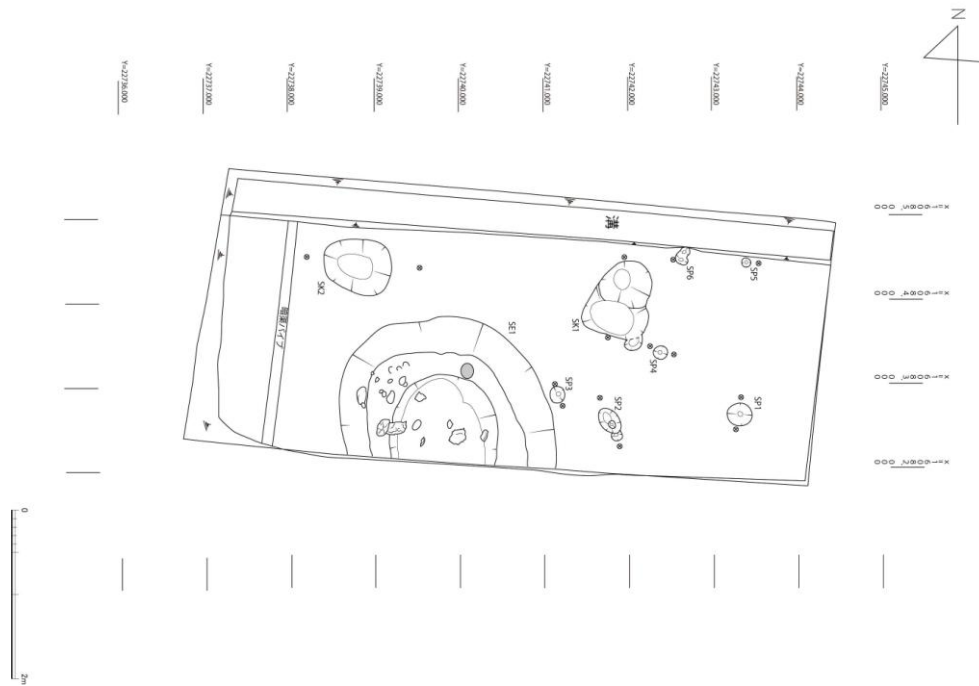
井戸(遺物出土状況)



陶磁器・瓦質土器(風炉)



桃の種・櫛



平面図